

2022年12月23日

The Emerging Markets Weekly

円急上昇の影響は一部通貨にとどまる

本年は大変お世話になりました。
次回は2023年1月6日発刊です。
来年も宜しくお願いします。

新興国市場: 前週末16日、大半の新興国通貨は小幅続落。欧米中銀のタカ派姿勢の堅持を手掛かりにリスク警戒感は残り、特に欧米時間帯で弱含んだ。与党党首選を控えて、ZARが前日比▲1.1%と下げた。週初19日、大半の新興国通貨は小幅反発。前週に開催された中国の中央経済工作会議で、ゼロコロナ政策の合理化のほか、不動産市場への追加支援や企業寄りの政策が示唆されたと明らかとなり好感された。もともと、米国時間で株式市場が続落となると、新興国通貨は上昇幅を縮小。ラマポーザ大統領が与党党首選で再任されたことを受けて、ZARは前日比+2.2%と大幅に反発した。20日、大半の新興国通貨は小動き。アジア時間では、日本銀行が長期金利の変動幅を従来の25bpから50bpに拡大すると発表し円高が進むとKRWも追随する動きを見せた。欧米時間でも円主導のドル安にユーロが堅調に推移し、東欧通貨も強含んだ。BRLは前日比+1.8%と大幅続伸。歳出法案を巡る債務上限の特例措置期間を2年から1年に短縮することが下院で合意されたことが手掛かりとなった。21日、新興国通貨は手掛かり材料に欠け小動き。アジア時間では、円高を支えにKRWが続伸する一方、CNYは感染拡大が重しとなった。欧米時間では、商品市況の堅調さもありZARやMXNの上昇が目立った。22日、アジア時間の新興国通貨は総じて小幅上昇。前日の米株反発に株式市場が堅調な動きを見せた。KRWは4日続伸となった。欧米時間の新興国通貨は上昇幅を縮小する展開、一部はマイナス圏に沈んだ。米国の堅調な経済指標にFRBのタカ派化が意識された。ただ、そうした中でも、BRLやMXNの堅調さが目立った。

アジア: タイ中央銀行(BOT)は19日、国内経済が潜在成長率並みの成長を遂げ、インフレが目標水準の戻るまで利上げを継続する姿勢を示した。20日発表の中国12月最優遇貸出金利(LPR)は、従来水準(1年物:3.65%、5年物:4.30%)に据え置かれた。中国と香港の証券当局は19日、株式相互取引(ストックコネクト)の対象銘柄の拡大で合意。中国本土の投資家に、香港取引所に上場する外国企業の株式の売買を可能とする見通し。韓国銀行(BOK)の李総裁は20日、物価に重点をおいた通貨政策の運営を続ける必要があると述べ、継続的な政策金利の引き上げを示唆した。インドネシアのジョコ大統領は21日、2023年6月からのボーキサイト輸出禁止を発表。禁輸措置は他の資源にも及ぶ可能性も示唆した。インドネシア中央銀行(BI)は22日、政策金利を25bp引き上げ5.50%にすると決定した。利上げ幅はこれまでの50bpから縮小。BIはインフレが抑制されているとの認識を改めて表明した。

中東欧・アフリカ: ロシア中央銀行(CBR)は16日、政策金利を7.50%に据え置くと決定。据え置きは2会合連続。ナビウリナ総裁は、戦争コストによる新たなインフレ圧力や労働力不足による人件費の増加を指摘した。ロシアのプーチン大統領は21日、国防省の年次会合でウクライナ侵攻に必要なものをロシア軍にすべて提供すると確約、資金的な制限はないと表明した。トルコ中央銀行(CBRT)は22日、前回会合で予告した通り、政策金利を9.00%に据え置いた。

市場営業部

マーケット・エコノミスト

堀内 隆文

03-3242-7065

takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト

堀 堯大

03-3242-7065

takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

市場概観(フィリピン)

12月金融政策会合～利上げを継続、インフレ懸念は後退せず

マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

フィリピン中央銀行(BSP)は15日に開催した金融政策会合で、政策金利の翌日物リバースレポレートを従来の5.00%から5.50%へ引き上げた(図表1)。7回連続での利上げとなり、利上げ幅は前回の75bpsから50bpsへ縮小した。同時に上限金利の翌日物貸出ファシリティ(OLF)レートおよび下限金利の翌日物預金ファシリティ(ODF)レートも同じ幅だけ引き上げてそれぞれ6.00%と5.00%とした。なお、ブルームバーグの事前予想でも50bpsの利上げの予想が有力であった。

声明文では、国内のインフレの状況と今後の見通しに関する記載が目立った。11月消費者物価指数(CPI)は前年比+8.0%と10月の同+7.7%から更に加速(図表2)。エネルギー価格の上昇には落ち着きが見られつつあるが、秋口に大規模な台風の被害を受けたことで、食料品価格の上昇が継続したことが影響した。また、BSPは22～24年にかけてのインフレ見通しを更新しており、それぞれ前年比で+5.8%、+4.5%、+2.8%とした。11月時点と比較して23年は更に+0.2%ポイント引き上げられたこととなる。先行きのインフレリスクについては先述した食料品価格の急騰の他にも、供給網の混乱や労働力不足を背景とした最低賃金水準の上昇を指摘した。

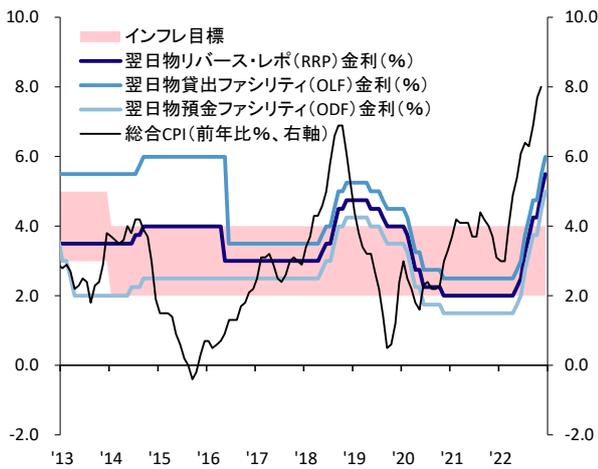
片や、23年の実質GDP成長率については、ここまで堅調さを保つとの見方が強かったが、政府は世界景気減速懸念を考慮して従来の前年比+6.5～+8.0%から+6.0～+7.0%へ予想を引き下げている。足許において中国のゼロコロナ政策が見直されることが報道されているものの、経済正常化に伴う一時的な感染拡大は想定すべきリスクであり、これがフィリピンをはじめASEAN経済にも波及することも考慮すべきだろう。こういった意味で現時点での予想は依然不確実性を含むものと整理したい。

メダラ BSP 総裁は会合後の会見にて、インフレ率を中銀目標である+2.0～+4.0%へ収束させるため引き続き金融引き締め措置を実施する必要がある点に言及した。一方で、秋口に強まったPHP安圧力は足許においてやや落ち着いており(図表3)、為替相場に配慮した政策決定を行う必要性は薄れつつある。こうした状況を踏まえて次回会合以降は利上げペースを更に減速させ、23年の1～3月期には利上げの終了を検討し、ラグをもって現れる金融引き締めの効果を確認することとなりそうだ。

今年PHPは米国のインフレ加速と急速な利上げに駆動されたドル高によって大きく値を下げた。しかし、今週開催のFOMCではターミナルレートは引き上げられたものの、FRBの利上げにも終わりが見えてきており、ドル高にも調整が入っている。BSPの金融政策もあくまでデータ次第であるが、これまでのペースで引き締めが続くとは考えにくく両国の金利差に振られる為替取引にも落ち着きが見られると考えられる。

また、PHPにとって経常収支の悪化に底打ち感が出ているのも朗報だろう(図表4)。22年の経常赤字の拡大は原油をはじめ資源価格が高騰し、貿易赤字が深刻化したことが影響したが、年末にかけてその動向にもピークアウトの兆候が出ている。こうした状況を考慮し、23年に入っても緩やかながら、PHPは持ち直すものと考えたい。もっとも、ウクライナ危機の長期化、中国経済の冷え込みなど従前からのリスク要素は健在である。市場がリスクオフに傾けば、PHPの下落圧力は引き続き相応に強まるだろう。

図表 1:政策金利水準とインフレ目標



出所: フィリピン中央銀行、フィリピン国家統計局、Bloomberg、みずほ銀行

図表 2:消費者物価上昇率の推移(前年比%、%ポイント)



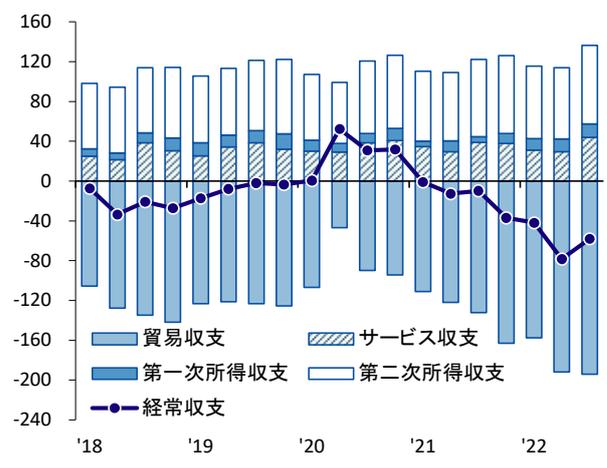
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3:PHPの動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 4:経常収支の動向(億ドル)



出所: CEIC、みずほ銀行

市場概観(新興国)

2022年11月のファンドフロー

市場営業部
 マーケット・エコノミスト
 堀内 隆文
 03-3242-7065
 takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
 03-3242-7065
 yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

2022年11月の新興国ファンドへの資金フローは、前月比;43.6億ドルと3か月ぶりの資金流入となった。株式ファンドは同+67.2億ドルと4か月連続の流入。一方、債券ファンドは同▲23.7億ドルと前月(同▲116.4億ドル)から流出額は縮小したものの、15か月連続の流出となった。

地域別ファンドへの資金フローでは、アジア(日本除く)が5か月連続の資金流入となった。債券は10か月連続の流出となったものの、17週連続の流入となった株式が補う構図が続いている。他方、ラテンアメリカは資金流出に転じた。株式への流入額が縮小、債券は流出に転じた。また、東欧・中東・アフリカは7か月連続の資金流出、流出額も前月から大きく拡大した。債券が前日に続き流出となったほか、株式が流出に転じた。

国別ファンドへの資金フローでは、マレーシアでの資金流入が目立った。株式は小幅流出に転じたものの、債券には2016年以来となる規模の資金流入がみられた。また、フィリピンや、インドネシア、メキシコでも資金流入額が膨らんだ。いずれも株式への資金流入拡大が寄与した。流入額ベースでは、台湾やインド、韓国が堅調府だった。一方、南アフリカは5か月ぶりに資金流出となった。株式と債券が揃って流出に転じた。また、中国への流入額は大幅に縮小。債券からの流出額が再拡大するなか、株式への流入が縮小している。

なお、12月に入っての新興国ファンドへの資金フロー(12月14日時点)は流出超に転じる動きをみせているものの、流出額自体は小幅にとどまっている。東欧・中東・アフリカ地域で、株式、債券ファンドともに流入超に転じてきているほか、ラテンアメリカの債券ファンドも流入超となってきている。

(注)各国別のグラフは、12月19日付の通貨ニュースでご確認いただけます。

図表 1: 新興国各国・地域のファンドフロー(月次)

	11月 (%)	Zスコア (過去5年)		11月 (%)	Zスコア (過去5年)
新興国	0.19	0.1	インドネシア	1.71	1.0
アジア(日本除く)	0.02	-0.3	インド	0.32	0.2
中国	0.01	-0.6	東欧・中東・アフリカ	-0.34	0.0
韓国	1.29	0.2	ロシア	-0.76	-0.1
台湾	3.93	0.3	トルコ	1.69	0.3
シンガポール	0.65	0.1	南アフリカ	-0.50	-1.2
フィリピン	6.12	1.4	ラテンアメリカ	-0.17	0.1
タイ	-0.57	-0.1	メキシコ	2.97	0.8
マレーシア	8.68	2.0	ブラジル	-0.18	0.0

注: スコアは株式ファンドと債券ファンドへの資金流出入額の前月比変化率で算出。

出所: EPFR、Macrobond、みずほ銀行

市場概観(メキシコ)

利上げペース減速も引き締めは継続

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

メキシコ中央銀行(Banxico)は15日、金融政策決定会合を開催し、政策金利(翌日物金利)を50bp引き上げて10.50%とすることを決定した(図表1)。利上げは2021年6月以降、13会合連続。米国と同様に、5会合ぶりに利上げ幅を縮小(75bp→50bp)した。なお、委員5名のうちエスキバル副総裁は25bpの利上げを主張したまた、同行は声明文で次回会合における追加利上げの必要性に言及するとともに、利上げ余地やペースに関しては検討を続けるとした。

The Board considers it will still be necessary to raise the reference rate in its next monetary policy meeting. Subsequently, it will assess if the reference rate needs to be further adjusted as well as the pace of adjustments based on the prevailing conditions.

Banxico はインフレについて、ヘッドラインベースでのピークアウトと、コアベースでの根強さに言及。事実、前者については9月をピークに2か月連続の減速が確認されている一方、後者については足許でもなお加速が続いている(図表1)。また、同行の見通しでも、ヘッドラインベースのCPI見通しはほぼ前回会合で示された水準が維持されたものの、コアCPIについては小幅な上方修正が続いた(図表2)。ヘッドラインとコアともに同行のインフレ目標(前年比+3%)に収斂してくるのは2024年後半が見込まれている。

Banxicoは、インフレを巡るリスクバランスについて依然として上方に傾いているとしており、これが引き締め姿勢を継続する主な理由だろう。同行は、上述のコアインフレ率の根強さのほか、ウクライナ危機によるエネルギー・食糧問題、雇用コストの上昇、通貨安等をインフレ上振れ要因として挙げている。2023年を展望すると、MXNの堅調な値動きの結果としてこれまではあまり警戒されてこなかった通貨安に注意が必要と考える(図表3)。

FRBが利上げペースを減速し始めたことは、米墨金利差を維持しながら国外への資金流出(≒通貨安)を抑制してきたBanxicoにとって朗報だろう(図表4)。今会合における利上げ幅縮小はFRBの決断なしには行えなかったのではないかと。ただし、今後強まってくるのは、実需面からの通貨安リスクだろう。従来は米国景気の持ち直しの恩恵を最も享受してきたが、米国景気減速もしくは後退が見込まれる中で、その逆風も免れることはできないだろう。

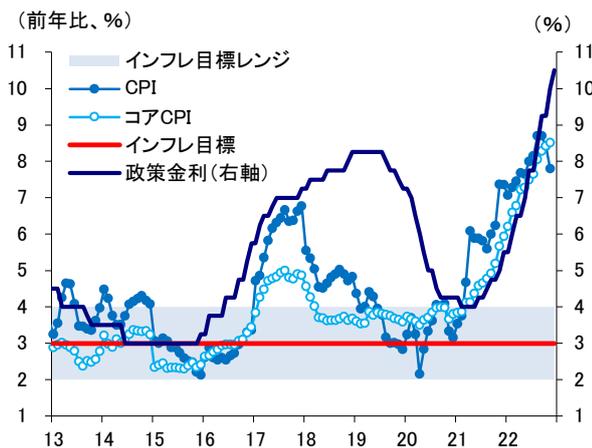
ひとつは、海外のメキシコ人労働者等からの送金のピークアウトだ。一定の相関がうかがえる米求人者数がすでに減少に転じていることがそれを示唆する(図表5)。特に、建設や製造業(非耐久財)、ヘルスケア・社会扶助等、比較的、労働集約の側面が強い業種で減少がみられる点には注意したい。また、成長率は鈍化が見込まれるとはいえ、メキシコ経済がコロナショック前の状況に回復しつつあることは、海外からの送金への依存度を低下させうる。

もうひとつは、外需の低迷だ。輸出については自動車生産の持ち直しは引き続き好材料も、米景気減速下で輸出全体としては伸び悩みが予想される。コロナ禍からの回復一巡で観光収入のさらなる拡大も時間を要しよう。メキシコ経済の持ち直しによ

る輸入増も見込まれる。上述の海外送金の見通しも考慮すれば、経常収支のさらなる改善は期待しにくい。再び経常赤字が常態化するという、いつもの状況に戻ると考えておきたい。これを、直接投資(外資誘致)でどの程度補えるか。この点では、グローバル・サプライチェーン再編が追い風となりそうな一方、現政権の国有企業優遇、USMCA 協定軽視の姿勢は障害となりうる。

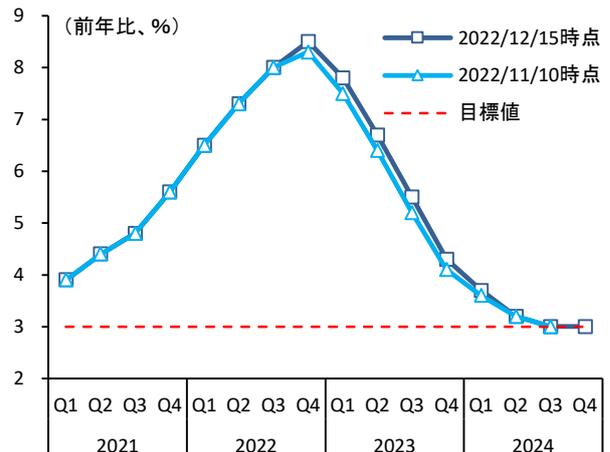
かかる状況下、Banxico は慎重な政策運営を続けよう。利上げについてはFRB 睨みで打ち止めの時期を探ることになるが、上述の通貨安リスクが警戒される中で、その後の利下げを巡る思惑は牽制していくことになるのではないかと。

図表 1: 政策金利とインフレ率



出所: メキシコ中央銀行、地理統計院、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: Banxico のコア CPI 見通し



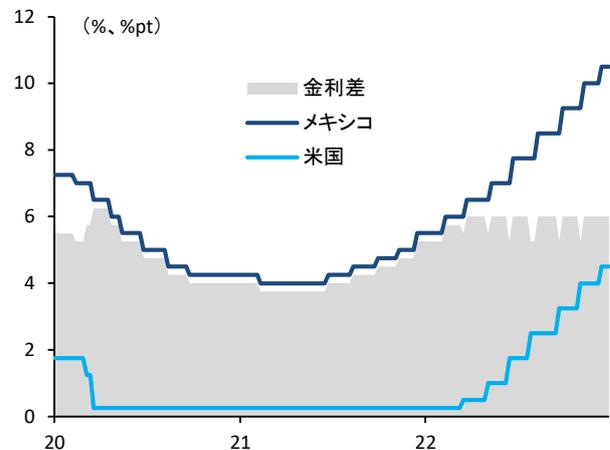
出所: メキシコ中央銀行、みずほ銀行

図表 3: MXN スポットレート



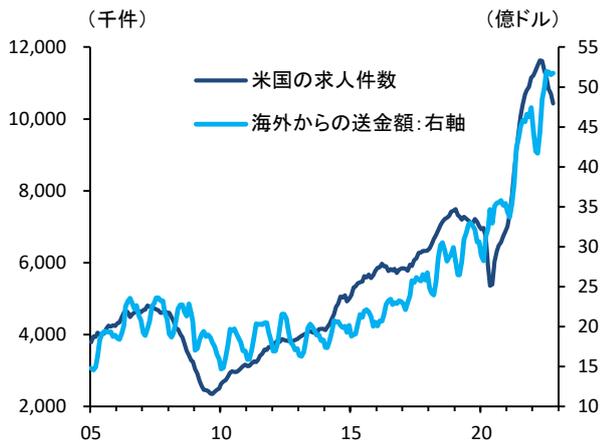
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: メキシコと米国の政策金利



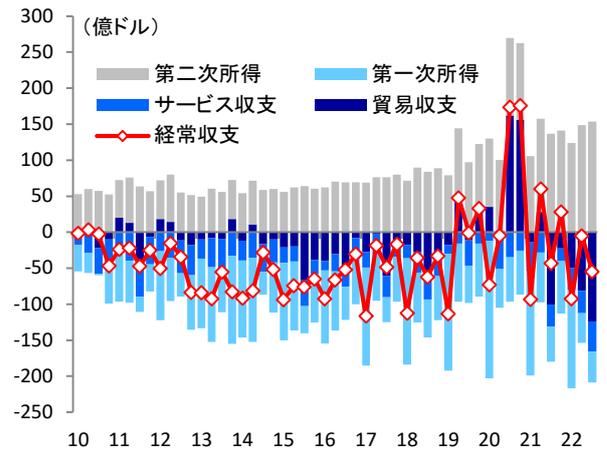
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 5: 海外送金と米求人件数



注: 3 カ月移動平均値をグラフ化
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

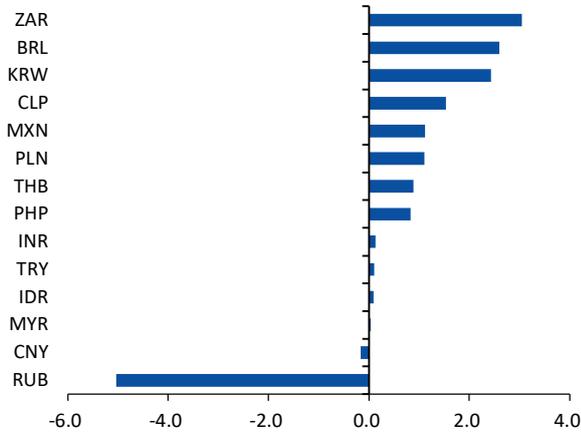
図表 6: 経常収支



出所: CEIC、みずほ銀行

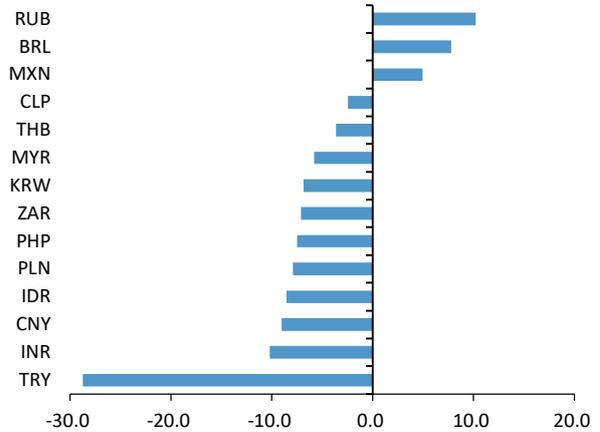
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



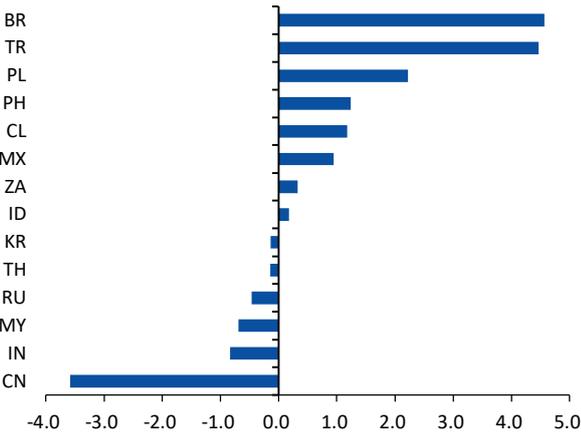
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



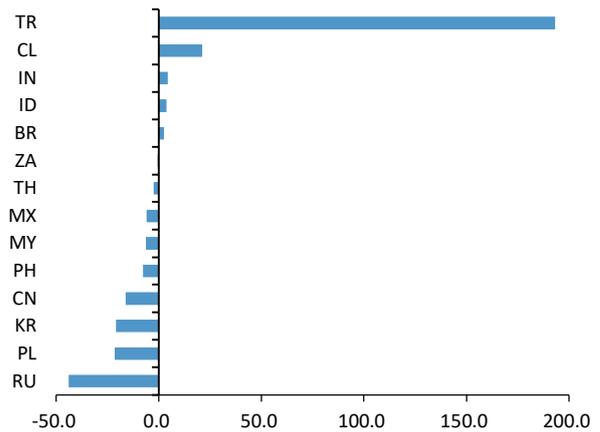
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



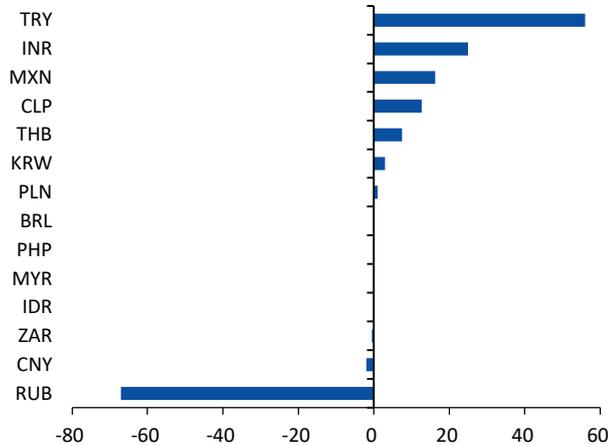
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

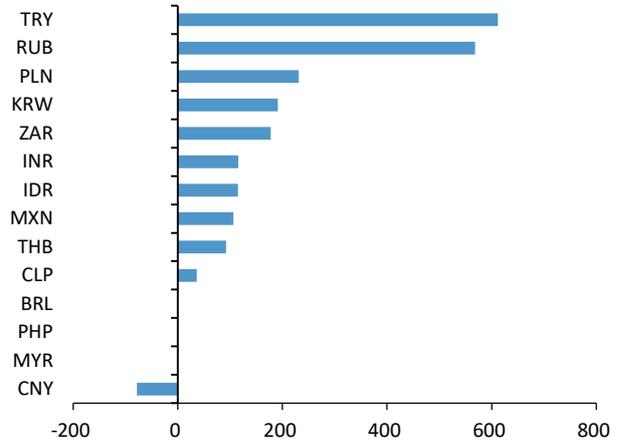
5年物スワップレート週間変化(bp)



注:データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

5年物スワップレート年初来変化(bp)

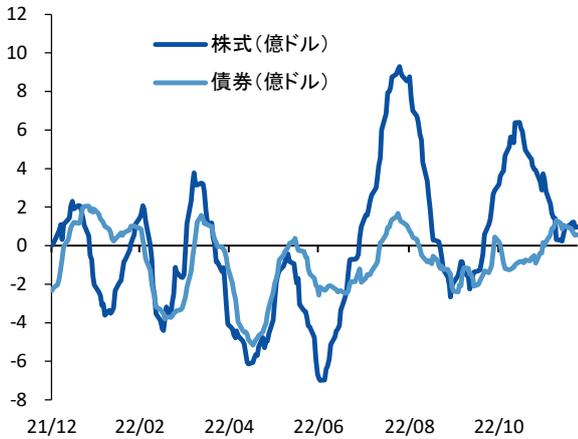


注:データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

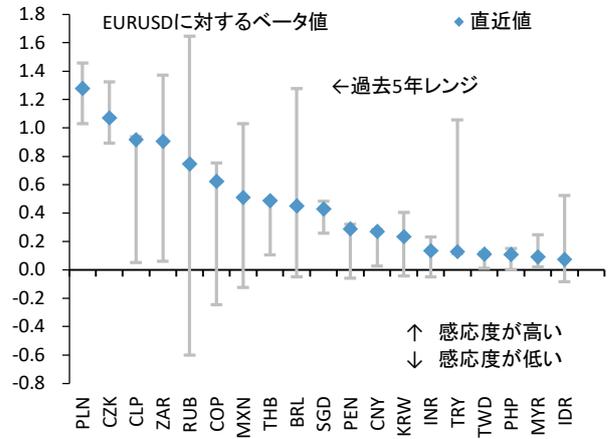
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



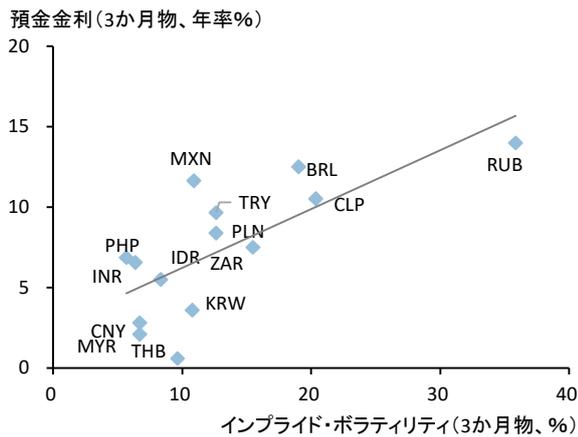
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



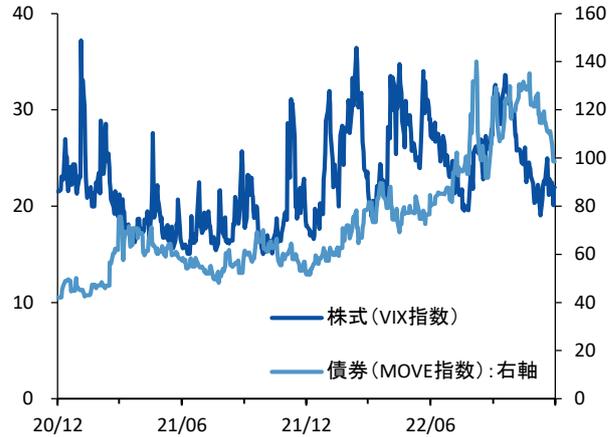
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



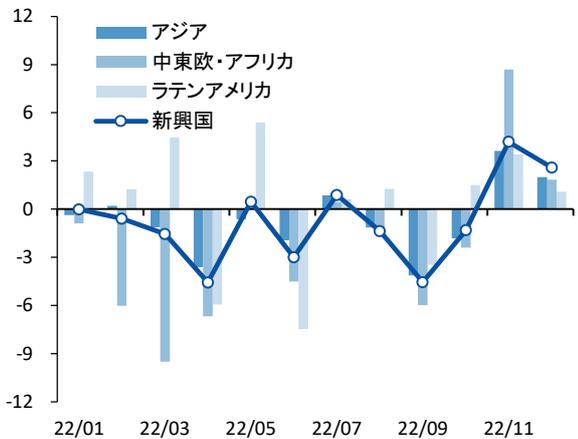
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



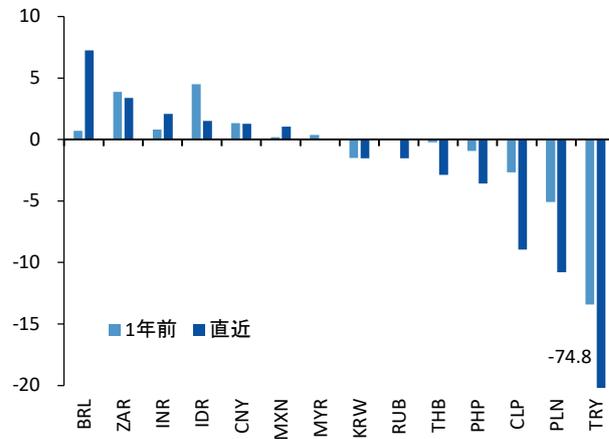
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
12月19日 (月)	フィリピン	総合国際収支	--	\$756m	\$711m	--
20日 (火)	台湾	輸出受注(前年比)	-12.8%	-23.4%	-6.3%	--
22日 (木)	韓国	PPI(前年比)	6.3%	7.3%	7.3%	--
22日 (木)	インドネシア	インドネシア銀行7日物リバースレポ	5.50%	5.50%	5.25%	--
23日 (金)	マレーシア	CPI(前年比)	3.9%	--	4.0%	--
23日 (金)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	-1.2%	--	-0.8%	--
23日 (金)	シンガポール	CPI(前年比)	6.5%	--	6.7%	--
23日 (金)	台湾	鉱工業生産(前年比)	-5.3%	--	-3.6%	--
26日 (月)	フィリピン	財政収支(フィリピンペソ)	--	--	-99.1b	--
27日 (火)	韓国	消費者信頼感	--	--	86.5	--
29日 (木)	韓国	鉱工業生産(前年比)	-4.9%	--	-1.1%	--
30日 (金)	韓国	CPI(前年比)	5.1%	--	5.0%	--
30日 (金)	タイ	国際収支:経常収支	--	--	\$837m	--
30日 (金)	タイ	貿易収支	--	--	\$1653m	--
中東欧・アフリカ						
12月22日 (木)	ロシア	PPI(前年比)	--	-1.9%	0.8%	--
23日 (金)	トルコ	外国人観光客(前年比)	--	--	38.4%	--
26日 (月)	トルコ	製造業景況感指数(季調前)	--	--	97.9	--
26日 (月)	トルコ	設備稼働率	--	--	75.9%	--
29日 (木)	ロシア	鉱工業生産(前年比)	--	--	-2.6%	--
29日 (木)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	--	--	-9.7%	--
29日 (木)	ロシア	失業率	--	--	3.9%	--
29日 (木)	ロシア	S&P Global Russia Manufacturing PMI	--	--	53.2	--
30日 (金)	南ア	マネーサプライM3(前年比)	--	--	9.8%	--
30日 (金)	ロシア	S&P Global Russia Services PMI	--	--	48.3	--
30日 (金)	トルコ	貿易収支	-8.80b	--	-7.87b	--
30日 (金)	ロシア	経常収支	--	--	51900m	--
ラテンアメリカ						
12月20日 (火)	メキシコ	小売売上高(前年比)	3.6%	3.8%	3.3%	--
21日 (水)	ブラジル	経常収支	-\$2100m	-\$60m	-\$4625m	-\$5056m
21日 (水)	ブラジル	海外直接投資	\$7250m	\$8338m	\$5541m	--
23日 (金)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	0.5%	--	0.5%	--
23日 (金)	メキシコ	貿易収支	-1454.9m	--	-2011.8m	--
23日 (金)	メキシコ	経済活動IGAE(前年比)	4.9%	--	5.2%	--
27日 (火)	ブラジル	融資残高	--	--	5215b	--
29日 (木)	ブラジル	FGVインフレIGPM(前月比)	0.5%	--	-0.6%	--
29日 (木)	ブラジル	純債務対GDP比	58.1%	--	58.3%	--

注:2022年12月23日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

		2022年 1～11月(実績)	SPOT	2023年 3月	6月	9月	12月	2024年 3月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.3065 ~ 7.3274	6.9854	6.95	6.90	6.80	6.70	6.65
香港ドル	(HKD)	7.7825 ~ 7.8500	7.7950	7.78	7.76	7.75	7.75	7.75
インドルピー	(INR)	73.779 ~ 83.293	82.763	83.8	81.6	84.0	82.0	80.4
インドネシアルピア	(IDR)	14250 ~ 15749	15583	15780	15480	16000	15880	15500
韓国ウォン	(KRW)	1185.81 ~ 1444.78	1276.05	1320	1300	1280	1260	1250
マレーシアリング	(MYR)	4.1645 ~ 4.7485	4.4230	4.49	4.36	4.56	4.45	4.38
フィリピンペソ	(PHP)	50.753 ~ 59.329	55.110	56.3	54.2	57.2	56.2	54.3
シンガポールドル	(SGD)	1.3408 ~ 1.4492	1.3519	1.39	1.37	1.40	1.37	1.34
台湾ドル	(TWD)	27.496 ~ 32.379	30.676	30.5	30.3	29.8	29.3	29.0
タイバーツ	(THB)	32.09 ~ 38.46	34.67	35.6	34.0	35.8	34.3	33.8
ベトナムドン	(VND)	22627 ~ 24874	23669	24200	23600	24500	23800	23700
ラテンアメリカ								
ブラジルリアル	(BRL)	4.5853 ~ 5.7239	5.1730	5.20	5.13	5.05	5.00	5.00
メキシコペソ	(MXN)	19.0401 ~ 21.4676	19.5676	19.8	19.9	20.1	20.3	20.5
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	17.867 ~ 20.965	18.951	18.85	18.70	19.71	20.45	20.90
香港ドル	(HKD)	14.576 ~ 19.357	16.979	16.84	16.62	17.29	17.68	17.94
インドルピー	(INR)	1.491 ~ 1.837	1.598	1.56	1.58	1.60	1.67	1.73
インドネシアルピア	(100IDR)	0.792 ~ 0.976	0.850	0.830	0.833	0.838	0.863	0.897
韓国ウォン	(100KRW)	9.322 ~ 10.776	10.372	9.92	9.92	10.47	10.87	11.12
マレーシアリング	(MYR)	27.109 ~ 32.120	29.847	29.18	29.59	29.39	30.79	31.74
フィリピンペソ	(PHP)	2.202 ~ 2.563	2.394	2.33	2.38	2.34	2.44	2.56
シンガポールドル	(SGD)	84.19 ~ 106.28	97.91	94.24	94.16	95.85	100.00	103.58
台湾ドル	(TWD)	4.060 ~ 4.721	4.305	4.30	4.26	4.50	4.68	4.79
タイバーツ	(THB)	3.416 ~ 3.981	3.797	3.68	3.79	3.74	3.99	4.11
ベトナムドン	(10000VND)	0.5005 ~ 0.6168	0.5591	0.54	0.55	0.55	0.58	0.59
ラテンアメリカ								
ブラジルリアル	(BRL)	20.216 ~ 29.247	25.627	25.19	25.15	26.53	27.40	27.80
メキシコペソ	(MXN)	5.377 ~ 7.580	6.765	6.62	6.48	6.67	6.75	6.78

注:1. 実績の欄は2022年11月30日まで。SPOTは12月23日の8時35分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。